

AESJ-SC-P006:2007

日本原子力学会標準

「原子力発電所の地震を起因とした確率論的安全評価実施基準：2007」

正 誤 表

頁	訂正箇所，内容	誤	正
xvii	目次 5.7.1 の誤記	5.7.1 地震動 <u>レベル</u> の設定	5.7.1 地震動 <u>強さ</u> の設定
xix	目次 7.5.2 の誤記	7.5.2 事故シーケンスの条件付発生確率の評価	7.5.2 事故シーケンスの条件付 <u>き</u> 発生確率の評価
xxii	目次 解説 77 と 83 の 誤記	解説 77 フラジリティ評価手法における中央値及び標準偏差の一般的傾向 解説 83 機器・配管系のアンカー部の現実的耐力評価	解説 77 フラジリティ評価手法における中央値及び標準偏差に関する <u>留意事項</u> 解説 83 機器・配管系のアンカー部の現実的耐力評価の <u>考え方</u>
xxiii	目次 解説 96 の頁	解説 96 機器種別ごとの・・・ <u>360</u>	解説 96 機器種別ごとの・・・ <u>361</u>
237	16 行目	ハイブリット法	ハイブリ <u>ッ</u> ド法
314	(解 62-3)式, (解 62-4)式, (解 62-6)式, (62-7)式における - の位置ずれ	$c\beta_s = \sqrt{(\beta_{s^r})^2 + (\beta_{s^u})^2}$ $c\beta_R = \sqrt{(\beta_{R^r})^2 + (\beta_{R^u})^2}$	$c\beta_s = \sqrt{(\beta_{s^r})^2 + (\beta_{s^u})^2}$ $c\beta_R = \sqrt{(\beta_{R^r})^2 + (\beta_{R^u})^2}$

		$c\beta^r = \sqrt{(\beta_S^r)^2 + (\beta_R^r)^2}$ $c\beta^u = \sqrt{(\beta_S^u)^2 + (\beta_R^u)^2}$	$c\beta^r = \sqrt{(\beta_S^r)^2 + (\beta_R^r)^2}$ $c\beta^u = \sqrt{(\beta_S^u)^2 + (\beta_R^u)^2}$
314	(解 62-5) 式 β^u を $c\beta^u$ に修正 (2箇所)	$F(A) = \Phi\left(\frac{\ln(A) - \ln(\check{A}m \cdot e^{-\beta^u \cdot X})}{c\beta^r}\right)$ 又は $\Phi\left(\frac{\ln(A) - \ln(\check{A}m) + \beta^u \cdot X}{c\beta^r}\right)$	$F(A) = \Phi\left(\frac{\ln(A) - \ln(\check{A}m \cdot e^{-c\beta^u \cdot X})}{c\beta^r}\right)$ 又は $\Phi\left(\frac{\ln(A) - \ln(\check{A}m) + c\beta^u \cdot X}{c\beta^r}\right)$
314	下から 12 行目	標準偏	標準偏差
324	16 行目	原則とする <u>る</u> 。	原則とする。
330	下から 3 行目	偶然的 <u>不</u> 確さ	偶然的 <u>不</u> 確 <u>実</u> さ
334	19 行目	保守的な値が用いられる。 <u>る</u> 保守的な	保守的な値が用いられる。保守的な
353	1)保守要因の内容 3 行目	地震動に係わ <u>る</u> サブ応答	地震動に係わ <u>る</u> サブ応答
440	下から 1 行目	地震 <u>監</u> 視装置	地震 <u>感</u> 知装置
441	下から 3 行目	地震 <u>関</u> 知装置	地震 <u>感</u> 知装置
442	3 行目, 5 行目	地震 <u>関</u> 知装置	地震 <u>感</u> 知装置
530	10 行目	βu を次の <u>の</u> 通りとした。	βu を次の通りとした。
553	18 行目	スペトルモーダル解析	スペ <u>ク</u> トルモーダル解析